

平成27年

# 12月の重要農作業

四国中央市農業振興センター

《問い合わせ先》

四国中央農業指導班

(果樹) 東予地方局産業振興課産地育成室

(畜産) 東予家畜保健衛生所

TEL 23-2394

TEL (0898) 68-7322(代)

TEL (0897) 57-9122

## 【天気予報】

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、多い確率50%です。

	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)
2012年	6.1	9.6	2.8	98.5
2013年	7.2	10.5	3.8	89.0
2014年	6.3	9.5	2.9	127.0
1981~2010年	8.3	11.9	5.0	45.9

※気温については、1ヶ月の平均値

## 【作物】

### 1 麦 (裸麦・小麦)

#### (1) 雑草防除

播種直後に除草効果が低下した場合や、ヤエムグラ等の広葉雑草などが生育期に残っている場合は、次の薬剤を使用し、雑草防除に努めて下さい。

薬剤名	使用時期	10a 当たり		使用回数	適用雑草、使用上の注意など
		使用薬量	希釈水量		
ハーモニ75DF 水和剤	播種後～ 節間伸長前 (但しスズメテッポウ 5葉期まで)	5～10g	1000	1回	○1年生広葉雑草・スズメテッポウ・隣接作物に飛散しないように特に注意する。使用器具は使用後に消石灰500倍による水洗いを行う。
アクチノール 乳剤	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	100～200ml	70～1000	2回以内	○畑地1年生広葉雑草・ヤエムグラに特効的であるが、イネ科雑草には効果がない。

#### (2) 排水対策の徹底

湿害防止のため、圃場の周囲及び圃場内に3～5m間隔に排水溝を設置し、表面排水を良くして下さい。特に、排水溝は必ず圃場の外まで導いて、水が排水されるようにして下さい。

#### (3) 麦踏み

根の浮き上がり防止、分けつや根張り促進の効果があります。麦の3葉期以降で土壌が乾いている時に、年内1回の麦踏みを実施して下さい。なお、土壌が湿っている場合は生育不良となるので中止して下さい。

### 2 水稻の作柄

#### (1) 平成27年産水稻の作況指数は東予地域98(愛媛県98)でした。

ア 早期水稻(コシヒカリ、あきたこまち)は、7月中旬の台風11号の影響で穂ずれがみられましたが、梅雨明け以降は天候に恵まれ平年並みの登熟となりました。

イ 普通期水稻(ヒノヒカリ、にこまる)は、9月以降の気温が平年を下回って推移したことや、いもち病の発生で登熟がやや悪くなりました。

#### (2) 平成28年産水稻の栽培計画は本年の米づくりを振り返り、安定したうまい米づくりを進めて下さい。

<真鍋>

## 【野菜】

### 1 里芋・山の芋

#### (1) 土づくり

有機質の投入は、土づくりのためには重要な作業です。

有機質の投入にあたっては、次の点に注意して下さい。

ア 年内に終了して下さい。

イ 完熟堆肥を投入して下さい。

ウ 投入量の目安は3t/10aです。

エ 投入後は、最低2回は深耕して下さい。

#### (2) 里芋の貯蔵

種芋の貯蔵は、降霜までに完了しましょう。

ア 生け込み貯蔵

① 掘り取った芋が黒く湿っている状態の土壌水分が芋に良く、芋を傷つけないよう丁寧に掘り取ります。

② 貯蔵場所は、風当たりの少ない排水の良い場所を選び、4段程度に積み重ねて、全体に土を十分覆い、よくたたきつけます。

③ その時、稲わら等で適当な通気穴を作り、20日後に密閉します。

④ 12月以降(厳寒期)には稲わら等で覆い、寒害と乾燥害を防ぎます。

⑤ 周囲の排水には十分に注意しましょう。

イ 圃場で貯蔵する場合

藁殻で覆ったり、覆土したり、不織布をかけたりして、寒さ対策を十分に行なって下さい。

#### (3) 山の芋の貯蔵

山の芋は、排水の良い場所を選び、芋を60cm程度に積み上げます。

乾燥防止のために10～15cmの覆土をし、その上を稲わら等で覆います。

### 2 タマネギ

除草剤散布

活着後、ゴーゴーサン乳剤を300～500ml/10aを水70～1000(または、トレファノサイド乳剤200～300ml/10aを水1000)に希釈し、散布します。

除草効果を高めるため、土壌が乾燥している場合は、降雨後に散布して下さい。

### 3 ソラマメ

#### (1) 摘芯・誘引

親茎が7節程度に伸びた頃、生長点の柔らかい部分を摘心し、側枝の発生を促します。株元から強い側枝が6本程度確保でき次第、支柱を設置し誘引作業を行います。誘引して株元に光を入れることで同化能力が高まり、莢の肥大が促進されます。

#### (2) モザイク病

12月中旬頃まではアブラムシが飛来し産卵が見られますので、アブラムシの発生を確認した場合は、アドマイヤーフロアブル4,000倍やモスピラン顆粒水溶剤4,000倍等で防除して下さい。

<越智>

## 【果樹】

### 1 収穫

#### (1) 温州みかん

次の点に注意して、正品率向上と品質均一化を図って下さい。

ア 規格外果(大玉果、小玉果、日焼け果、傷果、病虫害被害果等)の樹上選果。イ 品質や着色を見ながらの適期収穫。浮皮発生が懸念される場合は、樹冠外周部の大玉果や8分以上に着色した果実から分割採取。

ウ 果実に傷や強い衝撃を与えないこと。

#### (2) いよかん

採収が遅いほど、着色、品質とも良くなります。12月下旬以降に、着色の早い樹冠外周部の果実から分割採取します。傷果や病虫害被害果を混入させないように注意して下さい。

### 2 予措・貯蔵

適切な予措・貯蔵管理により、腐敗防止と品質維持に努めて下さい。

#### (1) 温州みかん

採収後は、着色促進、浮き皮・腐敗の発生防止のため、減量歩合2～3%を目安に予措します。

#### (2) 宮内伊予柑

減量歩合3～5%を目安に予措した後、本貯蔵に移行します。

貯蔵管理の目安は、1～2月出荷では温度8～9℃、湿度85%、3月出荷では温度6～8℃、湿度80～85%です。換気にも注意して下さい。

### 3 中晩柑類の果実保護

鳥害防止、寒害被害軽減及び退色防止のために、袋をかけて果実を保護します。不知火と甘平は8分着色以上で、せとかは完全着色後に袋をかけ、12月20日頃までに終えて下さい。

<大西>

## 【花き・花木】

### 1 ラナンキュラス(球根養成栽培)

#### (1) 苗床での追肥

本葉出葉後、葉色が薄くなり始める12月上旬頃に、くみあい液肥2号の400倍で2～3回追肥して下さい。

#### (2) 本圃準備・定植

定植期は12月下旬です。圃場のpHが適正值(6.5)より低い場合、苦土石灰を100～120kg/10a施用し、pHを矯正します。

また、連作圃場や土壌消毒した圃場は土壌がしまり気味です。排水不良で後半の立枯れ等の多発要因となるので、完熟堆肥等を投入し土づくりに努めて下さい。

元肥は、ようりんを60kg/10a施用し、120cm幅で畝立てして定植します。

定植30日後の1月下旬頃に、窒素成分を追肥で施用します。

### 2 アネモネ

#### (1) 害虫防除にアディオン乳剤2,000倍を散布します。

#### (2) キノコバエは幼虫(4mm程度)は有機質に富んだ土壌中に生息し、発芽後から双葉期の葉や根を食害します。

### 3 シキミ

輪紋葉枯病は、葉に赤褐色の同心円状の輪紋を生じ、症状がひどいと落葉します。病葉は早めに摘み取り焼却します。樹幹が込合い、通気性が悪いと発生しやすくなります。ベンレート水和剤2,000倍、Zボルドー500倍を散布します。

<日野>

## 【畜産】

### 鳥インフルエンザの防疫対策

徳島県で採取された野鳥の糞便から、11月7日、H5N3亜型の低病原性鳥インフルエンザウイルスが分離されました。低病原性であってもH5、H7亜型は、鶏で発生すると家畜伝染病予防法に基づき、直ちに殺処分となります。養鶏農家の方は、農場内へのウイルスの侵入を防ぐべく、最大限の警戒をして下さい。

特に、鶏舎の金網や防鳥ネット(2cm角以内)が破損していないか、野生動物が侵入できる箇所はないか、定期的に確認して下さい。また、農場へ立ち入る車両の消毒(消石灰帯でも可)を実施するとともに、鶏舎専用の長靴の設置、鶏舎入口扉の隙間の有無などを再確認し、鶏舎内へのウイルス侵入防止対策を再度徹底しましょう。

また感染ルート等の早期特定と来場者や車両の出入り等の記録を行いましょう。

もし鶏に異常が確認された場合は、速やかに東予家畜保健衛生所へ通報して下さい。

<中谷>